



ホームスタートに出会って…そして9年後の今

利用者 大塚由香里さん

私がホームスタートを利用したのは、今から約9年前で娘が2歳の時でした。樹莉は22週4日で生まれ、体重が470gという超未熟児で体も弱く病気がちでした。元気なときにたまに『つどいの広場』へ行くことがありました。小さく産まれたため、成長や発達が遅れていて、『つどいの広場』へ行くと同じ位の年齢の子ども達が出来ることが樹莉には全く出来ず、比べてはいけなとわかっていても心配で気持ちが落ち込むことが多く、家に引きこもりがちになっていました。



そんなときにピッコロさんに、ホームビジターのことを紹介されました。家に来てくれて、子どもと遊んでくれたり、子育ての話を聞いてくれるということでしたが、初めはどんな人が来るのかな?何かいけなところを指摘されたりするのかな?等、正直、不安がありました。我が家に来てくださった野島さんは、とても穏やかで明るく、優しい気持ちで私たち親子に接してくださったので、樹莉もすぐになついて、野島さんと遊べる日を楽しみに待ち望むようになりました。当時は、ミルクの他にぶどうしか食べなかったの、一緒に買いに行ってもらったり、売っていない時期になると『あそこのスーパーでぶどうが売っていましたよ』と連絡をくれたり、樹莉が食べられそうな『きなこ』を使ったお菓子を一緒に作ったりしていただきました。野島さんには、お姉さんのような、友達のようなとても親しみを感じました。

そして、樹莉の離乳食が進まず、どうにかして食べさせないと、、、と悩んでいたときには「買い物も片付けも大変だから、お魚は焼き魚を買っちゃえば?」とか「樹莉ちゃんは、まだ小さいからきつとお腹の中ができあがっていないかもしれないから無理に食べさせなくても、そのうち食べる時が来るから大丈夫よ」と言ってくれました。いつも親身に話を聴いてくださり、決して否定せずにこちらの気持ちが楽になるようなアドバイスをしてくださったこと、どれだけ私の心が救われたことか、、、今でも当時のことを思い出すと感謝の気持ちでいっぱいになります。

このピッコロのホームスタートという素晴らしい活動が、これから長く続くことを願い、陰ながら応援していきたいと思っております。

10周年、本当におめでとうございます。

最後に…お陰さまで樹莉は小学6年生になり、毎日元気に学校へ通い、そして、給食は完食しています!



私とホームスタートの出会い

ホームビジター 野島和季子

「ホームビジター」初めて耳にする言葉に興味を抱きつつも何もわからないまま講座に参加しました。回を重ねるごとに戸惑うことばかり。必要とすることはわかるが自分に出来るのかわからないまま講座は修了。

そんな私の気持ちを払拭するかのようにはオーガナイザーの小俣さんから最初の訪問依頼がありました。離乳食と一緒に作ったり、子どもと遊んだり、話をするなどでした。我が子の時は、共働き、ベビーフード持参で預かってもらい無我夢中だったことしか思い出せないが、子ども大好き、人との出会い大好きな私は、ホームビジターとしての第一歩を踏み出しました。

大塚さんと樹莉ちゃんに毎回笑顔で迎えられ、私自身も新しい友だちができたような嬉しい訪問になりました。樹莉ちゃんの離乳食作りをする大塚さんの姿を通して、私は言葉に表せない温かいものを感じました。少しでも樹莉ちゃんが食べやすいように工夫して、一日中離乳食作りを考えているような様子も感じました。でも、樹莉ちゃんは食べたいものだけ。この一口にかけたお母さんの気持ちは知るよしもなし。

本が大好きな樹莉ちゃんは覚えるものも得意でした。大塚さんと3人で樹莉ちゃんの好きな遊びをしたり、おしゃべりしてあつという間の訪問でした。

久しぶりに訪問して何でも食べれるようになり、大きくなった樹莉ちゃんに驚きました。

試行錯誤だったかもしれない離乳食は、樹莉ちゃんの心の栄養として十分満たされていたように思います。どんなときも笑顔の大塚さんと一緒にいると私も優しい気持ちになれました。大塚さんの子育て日記の1ページに私も参加出来たこと、幸せな時間を共有出来たことに感謝しています。

「身近なところに自分のことをわかってくれる人がいて、そっと見守ってくれたら」と思っていただけのようなビジターになれたらいいなと思います。

素晴らしい出会いの橋渡しをしてくれるオーガナイザーの皆様、本当にありがとうございます。



大きくなった樹莉ちゃん
ママとビジターさん

写真撮影に快く協力
くださり、笑顔の素敵な
樹莉ちゃん。
ホームビジターさんに
背が追いつくほど
成長しています。



担当オーガナイザーより

オーガナイザー 小俣みどり

初めての訪問時、「こんにちは～」と明るく迎えてくれた大塚さんの笑顔が思い出されます。

樹莉ちゃんはお母さんの陰に隠れながらも「樹莉、小俣さんだよ」と言われると、微笑んで私をジッと見つめていました。樹莉ちゃんは当時まだ2歳でした。

お母さんとお話する中で、500g なく産まれた樹莉ちゃんは、1年も生きられないとお医者さんから伝えられたことをお聞きました。そして、障がいがあり、話すことがまだできず、離乳食中・・・肉より魚の方が良いと思うので、魚料理を作るけど・・・食べてくれない。実はお母さんは、魚の生臭さが大の苦手だと言う。

好き嫌いも多く、どうやったら食べてもらえるのか？どうやって遊んであげたらいいのかなあ？

やはり弱い部分もあるので、風邪など流行っている時は、外に出ないようにしていること等をおっしゃりながら、樹莉ちゃんが生きていることの喜び、一生懸命に向き合っている日々が伝わってきました。

お話を伺いながら、あのビジターさんが良いかなあと頭に浮かべながら帰って来て、ビジターさんに連絡すると、「私、仕事もしていたし、離乳食は適当だったと思うけどいいのかしら(笑)」

そのビジターさんの大らかさと子どもと遊ぶのが大好きで、ちょっと年上のママ友になれそうなビジターさんの相性はピッタリでした。

支援終了後、大塚さんに感想を伺ったら、「ホームスタートって何？無料で利用できるってどういうこと？ただより怖いものはないと最初は思った(笑)」とのことでした。

支援終了後も、地域の中でビジターさんとも会い、樹莉ちゃんは、「野島さん」を覚えていて良いつながりができています。